

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 31日

事業所名 宜野湾市児童発達支援事業所「愛育園」

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		人数が多くなる場合は、固定遊具を移動してスペースを広くしている。	
	2	職員の配置数は適切である	5			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5		子ども達が安心して過ごせるように設定している。絵本コーナーも設けて、クールダウンができる場所としても機能している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5			
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		職員会議で振り返りの時間を作り、業務改善できるようにしている。また、職員理想像到達達成評価記入シートを元に、1年間の振り返り、目標設定を行っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5			
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		親子通園連絡協議会の研修会には参加するようになり、園内では専門士による勉強会を行い、職員の資質向上を行っている。	
適切な	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		アセスメントは発達課題を明確にとらえることが出来るように適切に行うようになっている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	1		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		毎月、話し合い相談しながら立案している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
支援の提供	15	5		子ども達の発達に応じてプログラムを立て変化をつけて楽しめるようにもしている。	
	16	5		子どもの発達に応じて個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	
	17	5		活動内容等は皆が確認できるように見やすいところに掲示し、リーダーを決めて打ち合わせしている。	
	18	5		支援や活動内容を振り返り、次に繋げられるようにしている。	
	19	5			
	20	5			
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	5			
	22	5		子育て支援課や教育委員会との情報交換会も行っている。	
	23			現在、対象児童はいません	
	24			現在、対象児童はいません	
	25	5		移行の際は子どもの様子や支援内容を書面等で伝えている。	
	26	5		移行の際は子どもの様子や支援内容を書面等で伝えている。	
	27	5		定期的に親子通園連絡協議会研修に参加し、保育に取り入れている。	
	28		5		コロナ渦で行えていないため、できるようになったら交流機会を設けようと考えている。
	29	3	2	療育部会への参加をしている。	
	30	5		活動の中で現在の様子を確認して発達の共通理解をするように心がけている。	
	31	2	3	ペアトレは行っていないが、必要であれば市で行っているものや病院等を案内している。	
32	5				

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5			
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		臨床心理士の発達相談にも案内して相談に応じている。	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5		月2回母の会を開催して保護者同士が話せる場を作ったり、卒園児の父母との情報交換会や交流会をの機会を設けている。	
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5		相談があるときは事前に予約を取って保育士や臨床心理士が対応できることを伝えている。	
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		毎月、園だよりにて発信している。	
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	5			
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		伝わるように手段等、配慮している。	
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5		
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	2	3		発想を想定した訓練は実施していないが、地域に開かれた場所であることから、マニュアルの周知や訓練の検討をしていきたい。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		年2回火災避難訓練を行っている。	
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	1		
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1	食物アレルギーは初登園時に確認、児童票に記入してもらい職員間で把握している。	保護者による申告のみなので指示書があればさらに配慮できるかと思うので、検討していきたい。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		ヒヤリハットのノートを作り記入している。また、職員間で把握するようにしている。	
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している				

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。